

大阪府立豊中高校能勢分校において、 東京大学、大阪大学らとの共同研究をスタート 「生徒が主役、能勢町の交通課題の解決に取り組む」

大阪府立豊中高校能勢分校では、東京大学や大阪大学の教育、交通等を専門とする先生らとの共同研究により、通学等の地域課題の解決に取り組む。3月31日に国際交通安全学会の研究プロジェクトの採択が決定し、今年度、正式にスタートする。

大阪府立豊中高校能勢分校は、全校生徒80名程度の小規模校である。同校の所在地である能勢町は大阪最北端の中山間地に位置し、少子高齢化、若年層の人口流出が著しいが、一方では、生物多様性日本一にも位置付けられている。能勢町活性化のためには、この環境を活かしながら当校の魅力化を進め、生徒数を増やし、地元からの若者流出を食い止め、町外からの生徒の受け入れで流入人口の増加も考える必要がある。

同校の大きな課題は通学の問題である。同校は山間部に位置し、鉄道駅がなくバスの便も少ない交通不便地である。現在、徒歩や路線バス、自動車での送迎といった通学手段があるが、それ以外は自転車通学が最終的な手段となっており、自転車通学においては、安全面で中山間エリア特有の多くの課題を抱えている。

あわせて同校は、ユネスコスクールに認定されており、また、文部科学省のスーパーグローバルハイスクール(SGH)に指定され、修学旅行ではマレーシアの熱帯雨林調査など実践的な学びを提供するといった、グローバルな視点から様々な教育活動に取り組んでいる。

このたび、「理想的な交通社会の実現に寄与する」目的で1974年に設立された(公財)国際交通安全学会の研究プロジェクトとして、東京大学や大阪大学などの教育、交通等を専門とする先生らとの共同研究を行うことにより、このような通学課題の解決に取り組む。能勢分校には「地域魅力化クラブ」という地域の課題解決や魅力発信などに取り組んでいるクラブがあり、その部員を中心に生徒主導で検討を進めることで、「持続可能な開発のための教育(ESD)」や、「持続可能な開発目標(SDGs)」にも資することも期待している。

●研究プロジェクトの内容について(予定)

豊中高校能勢分校生徒の通学状況を改善するため、新たな交通手段としてe-bikeを導入し、生徒中心に通学上の安全面や環境面などの効果や改善点などを検討するとともに、教育的効果の測定も行う。

○工学的アプローチのもと、以下のような課題について調査を高校生たちと一緒にを行い、いかなる解決方法が見込めるかを検討する。

- ・通学路の街灯未整備(通学路の大部分には、街灯が整備されていない)
- ・トンネルの走行(山岳地域でトンネルが多く、自動車とのすれ違い時に危険)
- ・路面の整備不足(路面の凹凸が激しく、安全な走行に妨げ)
- ・野生動物との遭遇(鹿、イノシシなどとの接触事故の可能性が懸念)
- ・自然災害への対応(これまでに、土砂災害や雪・凍結などでバスが不通となり、学校が休校になってきた)

○教育的効果の測定

e-bikeの貸出やそれに基づく気付きなど、体験と学習を行うことの教育的効果を検証、測定する(アンケート等によって、プロジェクト前後での「知識」「技能」「価値観・態度・意識」などの変容を評価する)。

●研究プロジェクトの体制

- ・研究代表者：北村友人 東京大学大学院教育学研究科教授
- ・その他大学研究者：大阪大学、大阪市立大学、九州大学等
- ・大阪府立豊中高等学校能勢分校
- ・大阪府能勢町役場
- ・株式会社能勢・豊能まちづくり
- ・プロジェクト推進事務局：(公財)国際交通安全学会



◆東京大学大学院教育学研究科 北村友人教授コメント

高校生たちが、最も身近な「通学」に関する課題を乗り越えるために、積極的にプロジェクトに取り組んでくれることを楽しみにしています。このプロジェクトを通して、安全面や環境面での課題を見つけ出すと共に、自分たちの地域社会について改めて考える機会になることを期待します。そして、ローカルな課題が、いかにグローバルな課題にも繋がっているのか、高校生たちの「学び」が広がっていくことを願っています。

◆大阪府立豊中高校能勢分校 内田千秋教頭コメント

消滅可能性都市全国ワースト 24 位（2014 年日本創生会議）に位置づけられている能勢町において、能勢分校は能勢町活性化の核となるものです。生徒たちは、自分たちの町を活性化するために、地域で活動し地域協働で課題探究を進めています。また、卒業後も引き続き地域で貢献活動を行っています。能勢町の交通課題は、地域住民の生活上の大きな課題であり、また、能勢分校でも地域と共に歩む学校活動上の大きな障壁となっています。この交通課題を解決し、能勢分校が地域に貢献する人材を輩出し続ける学校であって欲しいです。